

木曳式で木材輸送

首里城再建を祝う

琉球通運

【沖縄】琉球通運（喜納

秀智社長、那覇市）は、10月29日から11月3日まで実施された首里城復興イベント

ト「いざ 首里城」令和の「木曳式」で正殿の復旧工事に使用する大木「御材木」の輸送を担った。

木曳式とは、琉球王朝の時代から首里城の造営、修復の際に行われてきた祭

事。2019年10月の火災

で焼失した首

里城正殿復旧

工事の着手

（3日）に合

わせて県が主

催した。

琉球通運か

らは低床トレ

ーラー台とド

琉球王朝時

代の神事の

衣装で正装

し、御材木

を首里城に

届ける社員

ライバー、安全確保のスタ
ツツらが参加。首里城正殿
建築の材料となる長さ9
メートル、重さ4トンのオキナワウ
ラジロガシを、伐採地であ
る国頭村で低床トレラーに
積み込み、那覇市の首里城
まで90キロの道のりを運ん
だ。

御材木の積載は、表面に
傷が付かないように特殊な
パッドやナイロン製のラッ
シングベルトで固定。更に、
ラッシングベルトの上に神
事にふさわしい太い荒縄を
はわせ、琉球王朝の雰囲気
を出した。

道中の那覇市などで行わ
れた祝賀パレード「木遣行
列」では、琉球王朝時代の
神事の衣装で正装した琉球
通運の社員が、誘導役の「舵
取」や御材木を運搬・積み上
げる「鵜飼」の役を演じ、
沿道を埋め尽くした県民と

首里城再建を共に祝った。
今後、社会貢献事業の一
環として首里城関連の各種

イベントに協力していくほ
か、首里城正殿の再建で木
材の搬入や保管も行い、県

民のシンボルである首里城
の再建をサポートしてい
く。
（高松美希）